

[研究区分 : 地域課題解決研究]

研究テーマ	介護保険施設に導入されたミールラウンドを定着させていくための支援ツールの作成	
研究代表者	人間文化学部 健康科学科 教授・栢下淳	連絡先 : kayashita@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者	助教・山縣誉志江 広島市立リハビリテーション病院 歯科部長・吉田光由	
【研究概要】 介護保険において重要項目とされている口から食べる楽しみを行う支援として、ミールラウンドを定着させていく必要がある。ミールラウンドとは、摂食嚥下障害者の食事場面における観察項目や栄養状態のチェックすることで、そこで使用するさまざまな職種で利用できる支援ツールを開発する必要がある。本研究では、この支援ツールの作成を目的とした。研究代表者および課題提案者をはじめとする支援ツール検討委員会を立ち上げ、広島全域で使用できる支援ツールの作成を行なった。		

【研究内容・成果】

■ 背景・目的

平成 27 年度に改正された介護保険では、「口から食べる楽しみの支援の拡充」が重要な項目として示されている。これには、多職種によるミールラウンド（食事場面の観察）やカンファレンスを通じて、経口摂取の促進を行うことが重要である。このような取り組みを行なうのは、主として看護師、管理栄養士、介護職員である。課題提案者は過去、管理栄養士と歯科との協働ならびに管理栄養士による咀嚼能力等の口腔機能の評価に向けたチェックシート等を完成させてきた。しかし、介護施設では管理栄養士は 1～2 名の配置に留まり、管理栄養士以外の職種も参加するミールラウンドでは、既存のチェックシートは専門性が高すぎて、ヘルパー等の専門知識が少ない職種で使用が困難である。介護保険改正に伴う今回のミールラウンドが、介護施設のみならず、在宅等、広島広域にわたり定着できるようにできればと課題提案者は考えた。

そこで、本研究では、介護保険施設におけるミールラウンド実施に向けた課題を明らかにし、その対策を検討し、ミールラウンドを定着させていくための支援ツールを作成することを目的とした。具体的には、ミールラウンドの際のチェック項目を明確にし、そこでチェックされた項目にどのように対応するのかを明示することとした。

■ 方法

ミールラウンドの際のチェック項目を明確にし、そこでチェックされた項目にどのように対応するのかを明示するため、配布用冊子の作成を検討した。課題提案者の広島市立リハビリテーション病院 吉田光由先生の他、事業に賛同していただいた、広島大学病院脳神経内科医師、県立広島病院耳鼻科医師、広島大学病院歯科医師、広島大学病院嚥下認定看護師、広島市リハビリテーション病院嚥下認定看護師、西広島リハビリテーション病院言語聴覚士（本研究室で修士課程を修了）、広島大学病院管理栄養士（本研究室の修士課程修了）、荒木脳神経病院言語聴覚士など、様々な病院の様々な職種が休日に 3 回（3 日間）昼から夜まで長期間のミーティングを行ない、ミールラウンド用の冊子作成を進めた（写真）。また、メール審議による内容の検討も複数回行った。



ミーティングの様子

■ 結果・考察

臨床現場でのミールラウンドの際のチェック項目が明確となり、ミールラウンド用の冊子としてまとめた。この冊子（30 頁程度を想定）を、本学の名前を入れ、印刷し、無償で病院や高齢者施設に配布する予定である。

平成 28 年度から病院において管理栄養士が摂食嚥下障害患者に対し栄養指導を行った場合の保険点数料が新設された。そこで管理栄養士が栄養士指導の際に本冊子を利用し、患者に情報提供するとともに、冊子を患者に配布することを想定している。また、情報を広く浸透するためスマイルケア食分類を作成している農林水産省にも多くの冊子を送付予定である。さらに、広島県脳卒中連携パスにも本成果の一部を使用してもよいかと広島大学脳神経内科医局より打診があり、脳卒中患者の食事提供にも有用なツールとなることが期待される。

広島県内の介護保険施設で従来の経口維持加算、経口移行加算を算定している施設は数少ない。このままの状況では、介護保険が改正されたからといって、すぐに算定施設が増えるとは考えにくい。しかしながら、高齢者の一番の楽しみである食を守ることは、要介護高齢者の QOL 向上に欠かせない。本研究では、介護保険施設においてミールラウンドにスムーズに取り組めるようになるための支援ツールを開発することで、多くの介護施設が改定された経口維持加算に取り組むようになり、高齢者が「口から食べる」ことが支援できれば、医療・福祉に果たす役割は極めて大きいものと考えられる。また、この支援ツールは、今後著しい増加が予想される在宅での食事観察にも有用なツールとなると考えられる。

関連として啓発活動の一環として平成 27 年 11 月 29 日に県立広島大学サテライトキャンパスで市民を対象とし、栄養不良の防止、身体機能低下を防止また低下した身体機能を向上させるリハビリについて公開講座（医療関係者の参加もあり）を行った。150 名程度の参加があった。